

TOPIC 01

生業

Calling

小出麻代(こいでまよ)

1983年大阪府生まれ。2009年京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻版画分野修了。主な展覧会に、個展『うまれくるもの』(あまらぶアートラボ A-Lab、2017)、『empty park』(Gallery PARC、京都、2017)、『連鎖とまたたき』(京都精華大学ギャラリーフロール、2016)、『PAT in kyoto 京都国際版画トリエンナーレ』(京都市美術館、2016)、『大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015 枯木又プロジェクト』(旧枯木又分校、新潟)、個展『すいこみ はきだし ひろがる』(LABORATORY、京都、2013)、『1floor2012』(神戸アートヴィレッジセンター、兵庫)など。

小出麻代『すいこみ はきだし ひろがる』(LABORATORY、京都、2013) 撮影：長谷川淳

Attitude

ふるまい

小出麻代 - 越野潤

私 たちの生きる世界は、想像よりも遥かに不確実にできていて、絶対的に言い切れること、信じられること、というのはもはや存在しないのかもしれませんが。作品に多様な主張を託す現代美術において、指針とすべきものは、一体何なのでしょう。本展では、関西をメインに活動する小出麻代と越野潤の二人から、その応答を導きます。

二人のふるまいは対照的です。小出の近作は、ガラスや鏡、電球、紙片などの異素材を結び付け、インスタレーションを展開します。人が言葉にする以前の、未分化な記憶や感情をくすぐるような風景を紡ぎ出し、咀嚼する余地をたっぷりと与えます。一方、既存の絵画技法の分析と試行を繰り返し、「質」の表現を刷新してゆく越野。シルクスクリーンという聞きなれた言葉からはおよそ現実味を帯びない未知に満ちた空間に、私たちは全幅で身をゆだねるでしょう。

これらは一見生々しさから離れながらも、紛れもなく二人の手仕事によるものです。作家として生きるための仕事すなわち生業として、生活の中でリアリティをもって提示されます。ファンタジーでなく、スペクタクルでもない、現実の地続きとして。

私たちが作品をみるときに、自分を対象へ合わせる作業が自然に起こりますが、その方法は様々であって良いはず。二人が空間を形づくると同時に、私たちもそれぞれに対しチューニングしていく。そこに、生きるための前向きな孤独を見出すことができるのではないのでしょうか。未知と既知を行き来する、有機的なやりとりの交歓に、ぜひご期待ください。

作品をみる自分自身の感覚が二人の作品を通してどのように振られていくのかも楽しみにしています。関連企画も合わせて何度も足を運んでいただければ嬉しいです。

平野春菜(アートコーディネーター)

越野潤(こしのじゅん)

1967年大阪府生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻修了。主な個展に『SOLO EXHIBITION』(ギャラリーヤマグチクンストパウ、大阪、2017)、『TRANSLUCENT/SURFACE』(GALLERY aM、東京、2016)、『8 WHITE RECTANGLES』(あしやシュレ、兵庫、2014)、『PERSPECTIVE』(アトスペース・ゼロワン、大阪、2013)、『interlude』(ギャラリーヤマグチクンストパウ、大阪、2012)など。主なグループ展に『BEYOND TIME』(あしやシュレ、兵庫、2017)、『北野吉彦・越野潤二人展』(NSA noborimachi space of art、広島、2014)、『うつせみ』(常懐荘、愛知、2012)など。

越野潤『SOLO EXHIBITION』(ギャラリーヤマグチクンストパウ、大阪、2017)

Interview

——制作を進める中で、どのようなことを指針としていますか。

小出 今回の展示では「時間と距離」をテーマにして制作を進めています。その発端となっているのは、日常的に収集している石や貝などの漂流物との出会いです。自分とは全く異なる時間軸や場所性を内包した小さなそれらの存在が、遠く離れたところと私とを緩やかな線で繋ぎます。その線を頼りに様々な時間や距離について思考を巡らせています。それは同時に、自分が今存在しているということを確認する行為でもあると感じています。

越野 絵画を専攻していた学生時代から、絵画における新しい表現を模索する事を指針としてきました。絵画によるインスタレーションという手法も、その意図によるものですが、特にそこに記される作品は、今まで自分も見たことの無い視覚性を備えたものにする事を目指してきました。因習的な絵画という形式から、発想の材料、手掛かりを探り、自分独自の表現に繋げる事を目標に制作しています。

本展に際して、出展作家のお二人にインタビューを行いました。

——本展では観客にどのようなことを感じ、考えてほしいと思いますか。

小出 ひとつの解釈を押し付けることはなるべく避けたいいつも考えています。もちろん作品として成立させる為の枠組みはあって、私自身はそこに厳密に向き合って提示しようと思っています。しかし、そのまま押し付けるのではなく、その中で鑑賞者それぞれに読み解いてもらうことが望ましいです。そして、できれば何度か作品を体験して頂きたいです。作品が毎回呼び水となり、体験がその都度変化したものにできればいいなと思っています。

越野 多様な解釈を受け入れる作品に僕自身興味がありますので、自分の作品も観客に様々な受け取られ方をすると良いなと思っています。期間中の「肅々音楽祭」は、会場で音楽を流す試みですが、流す音楽はあくまで一例であり、こう感じてほしいという押しつけではありません。ただ、カール・ストーンさんのライブ・パフォーマンスはお薦めです。カールさんの演奏と僕の作品との相乗効果(あって欲しいと願う)を味わってほしいと思います。

チューニング

and Tuning: Koide Mayo - Koshino Jun

『生業・ふるまい・チューニング 小出麻代-越野潤』

会期：2月22日(木)~4月8日(日)10:00~20:00
会場：ギャラリー北・南・和室「明倫」ほか

【関連企画】

アーティスト・トーク

日時：2月24日(土)15:00~16:30
集合：ギャラリー南
※入場無料、事前申込不要

一展覧会空間を味わう試み5種 -

暗がりの散策

作家と展示空間で過ごす、マイクロツアー。
お茶とお菓子付
日時：3月3日(土)15:00~16:00
会場：ギャラリー南
ガイド：小出麻代
お菓子：杉山早陽子(御菓子丸)
料金：1,000円
定員：20名(先着順/要事前申込)

早春夜話

※ナイトミュージアム京都連携企画
マイクの電源を切って、話し声に耳を澄ませる夜のトークイベント。
日時：3月17日(土)18:30~20:00
会場：ギャラリー南
ゲスト：梅田哲也(現代美術)
ガイド：小出麻代
料金：無料
定員：40名(先着順/要事前申込)

肅々音楽祭-A面

日時：3月18日(日)16:00~17:00
会場：ギャラリー北
選曲：越野潤
※入場無料、事前申込不要

肅々音楽祭-B面

日時：3月23日(金)19:00~20:00
会場：和室「明倫」
選曲：越野潤
※入場無料、事前申込不要

クロージング・パフォーマンス

日時：4月7日(土)16:00(約60分)
会場：ギャラリー北
出演：カール・ストーン(電子音楽)
料金：1,000円
定員：40名(先着順/要事前申込)
※パフォーマンス中、ギャラリー北の入場を制限いたします。

※イベント情報(P2)もご覧ください

EVENTS

▼ **2025年** 1月13日(土) - 31日(水) 10:00 - 20:00

各種イベント申込方法 (別途記載のあるもの、共催事業、制作支援事業は除く)
催し名・住所・氏名・電話番号を添えて、ウェブサイト申込フォーム、TEL、FAXで事前にお申してください。チケット窓口でも受け付けます。

※**㊦**印の公演は、京都芸術センター友の会のご招待券・ご優待割引対象公演です(制作支援事業は京都芸術センターチケット窓口取扱公演のみご優待。共催事業はご優待対象外)
その他、友の会特典詳細についてはウェブサイトをご覧ください

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

2025年

美術

冬休み芸術体験教室作品展

「写真の教室」参加者の作品を展示。

会期：1月13日(土) - 31日(水)10:00 - 20:00

※最終日のみ16:00
※会期中無休・入場無料

会場：インフォメーション

主催：京都市、公益財団法人京都市芸術文化協会

第4回「藝文京展」

「フォームとフィギュア」をテーマにした、立体造形分野の入選作品を展示。

会期：1月13日(土) - 2月12日(月・祝)

10:00 - 20:00

※会期中無休・入場無料

会場：ギャラリー北・南

主催：京都市、公益財団法人京都市芸術文化協会、京都芸術センター

『生業・ふるまい・チューニング

小出麻代 - 越野潤』

会期：2月22日(木) - 4月8日(日)

10:00 - 20:00

※会期中無休・入場無料

会場：ギャラリー北・南・和室「明倫」ほか

【関連企画】

※Topic01(P1)もご覧ください

アーティスト・トーク

日時：2月24日(土)15:00 - 16:30

集合：ギャラリー南

※入場無料、事前申込不要

暗がりの散策

作家と展示空間で過ごす、マイクロツアー。

お茶とお菓子付。

日時：3月3日(土)15:00 - 16:00

会場：ギャラリー南

ガイド：小出麻代

お菓子：杉山早陽子(御菓子丸)

料金：1,000円

定員：20名(先着順／要事前申込)

『生業』

伝統

伝統芸能文化創生プロジェクト

『落語 The シンポジウム』

日時：2月3日(土)14:00 - 17:30

会場：大広間

登壇：藤山直樹(上智大学総合人間科学部心理学科教授、精神分析家)、大田純寛(NHK「超入門」落語THE MOVIE)エグゼクティブプロデューサー)

司会：小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)

料金：無料

※定員に達したため申込終了

※当日参加は、13:00より受付(先着順)

「三味線三昧」

日時：2月4日(日)13:00 - 17:00 開場12:30

会場：講堂

出演：

〈道具製作〉

佃三恵子(原糸製造)、小篠敏之(糸製作)、今井三絃店(榎製作修理)

〈演奏〉

杵屋勝七郎(長唄三味線)、林美音子(柳川三味線)、新内枝幸太夫(新内節三味線)、鶴澤清志郎(義太夫三味線)、柴田雅人(津軽三味線)

料金：無料

※定員に達したため受付終了

講座シリーズ#3 女流義太夫を知る

女流義太夫の実演とお話。

日時：2月17日(土)15:00 - 16:30 開場14:30

会場：大広間

出演：竹本雛子(太夫)、豊澤雛文(三味線)

進行：小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)、畑律江(毎日新聞学芸部専門編集委員)

料金：無料(事前申込可)

定員：70名

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

『沓占式 - 下駄占い -』**㊦**

下駄で吉凶を占う「沓占式」を、実演を交えて紹介。芸を継承することについての討議も行います。
日時：3月4日(日)開場13:30 開演14:00
会場：講堂
出演：齋藤登(沓占式家元)
登壇：茂山童司(狂言師)、井上治(京都造形芸術大学准教授)、村川拓也(演出家)
司会：小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)
料金：一般前売1,800円／当日2,000円
学生500円(前売・当日共)

『沓占式 - 下駄占い -』**㊦**

下駄で吉凶を占う「沓占式」を、実演を交えて紹介。芸を継承することについての討議も行います。
日時：3月4日(日)開場13:30 開演14:00
会場：講堂
出演：齋藤登(沓占式家元)
登壇：茂山童司(狂言師)、井上治(京都造形芸術大学准教授)、村川拓也(演出家)
司会：小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)
料金：一般前売1,800円／当日2,000円
学生500円(前売・当日共)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

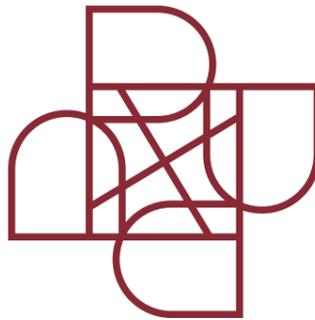
主催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

TOPIC 02

KAC TRIAL PROJECT / Co-program 2017

カテゴリ-A「共同制作」採択企画

ロゼッタ結成公演 『未知の空間』



Rosetta
contemporary
ensemble

Rosetta Contemporary Ensembleによる新曲公募公演。サクソフォン、マンドリン、ギター、左手のピアノによるユニークな編成のアンサンブルが、作曲家書き下ろしの新曲と世界中から公募選出された7曲を初演します。音楽表現、音楽鑑賞の両面において新たなスタイルを模索する本公演に先駆けて、ロゼッタ主宰の橋爪皓佐さんにお話を伺いました。

—『未知の空間』というタイトルで開催する音楽公演ですが、どんな「未知」を体験することができるのでしょうか？

本公演の一番の未知は、ずばり音楽作品そのものです。曲目はすべて新作で、本公演での演奏が世界初演となります。作曲家、演奏家、観客全てがこの演奏会で初めてこれらの音楽に実際に触れることになる、とてもエキサイティングな機会だと思います。

また、演奏会場には、映像を映写するスクリーンがいくつか配置されます。この映像装置が音楽公演のなかでどのような効果をうみだすのか、ここにも、色々な「未知」を期待してほしいと思います。

—本公演をもって結成される「Rosetta Contemporary Ensemble」。結成にける想いを教えてください。

私たちはギター、マンドリン、左手のピアノ、サクソフォンといった、20世紀になってからレパートリーの開発が進んだ、どちらかといえばクラシック音

楽の中では新参者の楽器ばかりのアンサンブルです。それぞれソロの作品は多くありますが、他の楽器とのアンサンブル作品のレパートリーはまだ不足している状況です。あえてこれらを組み合わせたアンサンブルを作り、一つの形として成熟させていくことが、ロゼッタの結成の動機でした。

アメリカで現代音楽がヨーロッパと大きく異なる発展をみせたように、日本という、全く別の文化圏で、新たな音楽のムーブメントを作り、他国の作曲家を刺激するというのはとても重要なことだと考えています。

また、「視覚的要素」の問題にも注目しています。音楽家だけでは見落としがちで、音楽公演における視覚的な問題点について、美術メンバーと共同で考察し、注意深く構成しながら映像を取り入れました。コンサート全体をひとつの視覚体験として提示する公演にチャレンジし、音楽表現の様々なあり方についても常に敏感なアンサンブルを目指しています。

他にも、異なる楽器同士がつどい、お互いの分野の観客を交換するという、音楽の裾野を広げるといったのも一つの大事な目標です。今後はメンバーによるジョイントリサイタルを開くなど、クラシックの伝統に則った演奏会と、公募公演のような多少前衛的な手法をとった公演を織り交ぜながら、独自の表現方法を探索していきたいと思っています。

—世界各地32の国と地域から、100件近くの応募があり、その中から精鋭の7作品が選出されました。今回演奏される楽曲の聴きどころを教えてください。

今回選ばれた作品は、オーストラリア、コロンビア、香港、インドネシア、イタリア、メキシコの作曲家によるものです。一緒に選考を行った作曲家の中堀海都さん、池田萌さんの作品とあわせ、どれもかなり趣の異なった作品となっています。しかしすべての作品が、京都で行われるこの日の公演のために書かれたものであり、楽譜というメディアを通して提示されています。その楽譜におさめられた音楽を、私たちロゼッタが、京都の地で観客に向けて、初めて披露することになります。プレゼントの包みを広げるように、皆様にも多くのサプライズをお届けできるはずですよ。

同時代の作曲家がいったい何を表現しようとしているのか。なぜ私たちロゼッタはその作品を演奏するのか。そして、全然知らない作曲家の作品を聞くことがどれだけエキサイティングな経験なのか。ぜひこの未知の音楽を、『未知の空間』で体験しにきてください。

世界各地から届けられた9つの新作スコアを演奏します。ロゼッタが奏でる生まれての音楽を、どうぞお聞き逃しなく。
富間芽(アートコーディネーター)

ロゼッタ結成公演『未知の空間』

KAC TRIAL PROJECT / Co-program 2017

カテゴリ-A「共同制作」採択企画。

日時：2月12日(月・祝)

開場16:45 開演17:00

会場：講堂

出演：Rosetta Contemporary Ensemble

橋爪皓佐(ギター)、有馬圭亮(左手のピアノ)、柴田高明(マンドリン)、永田参男(ギター)、日下部任良(サクソフォン)、佐古季暢子(マンドリン・マンドラ)

美術：宮坂直樹

料金：一般前売2,500円/当日3,000円

学生前売1,000円/当日1,500円

チケット取扱：京都芸術センター、株式会社サロット、フレット楽器ヤマサキ、レボワ音楽事務所

主催：Rosetta Contemporary Ensemble、

京都芸術センター

※イベント情報(P2)もご覧ください

TOPIC 03

アートを支える現場

—アーティスト・イン・レジデンスを中心に



昨年のアーティスト・イン・レジデンス シンポジウムの様子

京都芸術センターでは、京都市とともにアーティスト・イン・レジデンスの環境整備を進めるための事業を実施しています。

アーティストや芸術分野の研究者等がリサーチのため、作品制作のため、普段の生活とは異なる地に身を置くアーティスト・イン・レジデンスは、多くのアーティストに活用されており、京都芸術センターをはじめ、アーティスト・イン・レジデンスのプログラムを実施する機関も増えてきています。

アーティストが何かと出会い、そこで生活をし、作品を制作する。アーティスト・イン・レジデンスはまさにアートが生まれる現場ですが、その現場を支える人たちの役割もまた多様であり多分です。自分たちが「場」をつくる人、プログラムを運営する人、異なる分野間を繋げる人…。6つのトピックスをテーブルごとに話す本ラウンドテーブルでは各地でAIRプログラムを運営する方々やアーティストを招きます。展示会や公演など完成した作品を鑑賞するだけではないアートと関わる現場を覗いてみませんか。

アートを支える人たちはアーティストに負けず劣らず個性派揃い。そんな面々が一堂に集まるこの機会を私自身も楽しみにしています。

勝治真美(プログラムディレクター)

ラウンドテーブル

「アートを支える現場—アーティスト・イン・レジデンスを中心に」

日時：2月21日(水)14:00-17:15(第一部 14:00/第二部 15:30)

会場：フリースペース

料金：無料 定員：各テーブル30席(先着順/要事前申込)

テーブルテーマ

(第一部[#1~#3]、第二部[#4~#6]から1テーブルずつ選んでご参加ください)

#1「セルフビルドの場づくり」

飯高克昌(ANEWAL Gallery)、村田達彦(遊工房アトスペース)、赤井あずみ(HOSPITALEプロジェクト)

#2「学術×アート、産業×アート」

坪井あや(東京大学Kavli IPMU)、石澤依子(Creative Residency in Arita)、勝治真美(京都芸術センター)

#3「アーティストとAIRプログラムのマッチング」

吉田雄一郎(城崎国際アートセンター)、小田井真美(さっぽろ天神山アートスタジオ)

#4「心魅かれるレジデンス環境とは？」

黒田大祐(彫刻)、山本麻紀子(現代美術)、三原聡一郎(メディア・アート)

#5「国際アートプロジェクトを企画する」

クリスティ・モンフリーズ(インディペンデント・キュレーター※オンライン参加)、ジョアン・ライア(インディペンデント・キュレーター)、青嶋純(アートコーディネーター)

#6「アジアのオルタナティブ」

山本佳奈子(Offshore)、小川希(ART CENTER Ongoing)

※イベント情報(P2)もご覧ください。

KYOTO ART CENTER 京都芸術センター



交通案内

○市営地下鉄烏丸線「四條」駅/
阪急京都線「烏丸」駅22番出口・24番出口より徒歩5分。
○市バス「四條烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間

○ギャラリー・図書室・情報コーナー 10:00-20:00
談話室・チケット窓口 10:00-21:30
○カフェ 10:00-21:30
○制作室、事務室 10:00-22:00

休館日

12月26日から1月4日

〒604-8156

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2

TEL : 075-213-1000 FAX : 075-213-1004

E-mail : info@kac.or.jp URL : http://www.kac.or.jp/

twitter : @kyoto_artcenter

facebook : http://www.facebook.com/kyotoartcenter

